

研究結果報告書

帝国と植民地／新冷戦の東アジア：
転換期日本と韓国のヘゲモニー（覇権）再編を中心に

所属：世明大学
役職：准教授
氏名：李慧眞

研究結果

本研究は、帝国－冷戦－新冷戦と連なる東アジアの連続性、特に日本と韓国・中国の過去および未来を、東アジアの地政学の中で一つの歴史的連続性という枠組みを設定することで、過去の克服と未来への発展方向を探ってみようとするところに目的をおいている。このため本研究は、民族主義と国家主義を精神史的な拠り所としている韓国近代文学史の正典(canon)形成を見直してみた。更に、その解体と組み替えを試みるために、日本・中国・韓国の研究者たちによる共同研究を提案した。

これまで韓国近代文学史において正典と見做されてきた書籍は、およそ1930年代～1970年代に書かれたものであるため、帝国－冷戦の枠組みの中で、国民国家建設に対する政治的理解やその必要性、更には欲望などに伴う世界観が反映されている。しかし現在の国際秩序が、米中「新冷戦」の枠組みの中で「アジアへの回帰」という新しいパラダイムシフトに直面していることを知れば、我々は新しい文学史の立ち位置を求めざるをえなくなる。

すなわち、国際秩序のパラダイムシフトを直視しつつ、かつての国民国家の正典を解体し、新たな視点で見つめなおす作業は、東アジア全体の「植民地/帝国－解放/戦後－新冷戦」と続く時空間の地政学的・歴史的枠組みを再認識することに繋がるのである。更にそうした作業は、主体と他者の外縁を確定させることであるともいえる。加えてこうした共同作業は、全世界のネットワークを構築し、それを新しい文化的手段とすることで世界共同体を築きつつある「新人類」を対象とするとき、より重要なものとなってくる。

韓国文学史における正典の解体及び、新しい文学教育への転換とその目標とする所は、東アジアの地政学の中で、我々自身が作り上げてきた境界を崩す作業でもあり、横並び的に共感できる感性を基盤としなければならないであろう。そうした意味において、日本のプロレタリア文学や在日朝鮮人文学・中国共産党文学・朝鮮族文学を、東アジア文学史の枠組みに組み入れ直す作業の一環として、日中韓の共同作業を進めていこうと考えている。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名: East Asia in the New Cold War era after empire and colonization

発表者名: 李慧眞

会議名: International Workshop for Korean Literature Studies

日時: 2019年 3月 26日

場所: UC Berkeley, CA

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)